

栽培体系	月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作型		播種 育苗期間・定植 (5/20頃)										収穫①(個どり+機械収穫)		後片付け	
露地夏秋どり		耕起・施肥・畝立て										or		収穫②(個どり)	
品種: なつのしゅん		除草①				防除・除草②(病害虫は7番に掲載しております)									

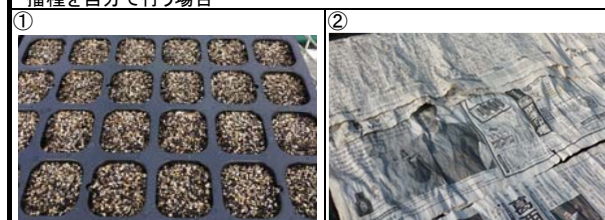


加工用トマトは、心止まり型で無支柱栽培(ハウスのトマトと違い地を這うように生育)できる露地品目です。ジュースやケチャップなどの原料となります。生食より果実が硬く、リコペン含有量の高い品種が用いられます。

1 育苗

播種・育苗作業の手順

播種を自分で行う場合



セルトレーは事前に土を詰めておきます。1粒播きで5mm程度の覆土をします。

発芽まで新聞紙等(①と同じ)で保温します。(発芽し始めたら保温資材は除去します)。



播種から20日後に本葉2葉上で摘心を行います。摘心を行うことで、開花が揃う、熟期が揃う、果実の肥大が促進されるメリットがあります。

播種後20日後頃から液肥等で追肥を行います。徒長防止の為、高夜温や水分過多に注意して下さい。

※培土に含まれる肥料分が多い場合は、追肥は不要です。

※育苗は当農協の育苗管理施設で委託することも可能です。
1トレー(株当たり) 72穴: 摘心有で43円税別、摘心無で40円税別です。

2 定植前準備

・土壌診断を行い、適正な施肥を行きましょう。
・pHは6.0~6.5に矯正します。

施肥例(平成29年度 JAびばい農場での事例)畝内施肥

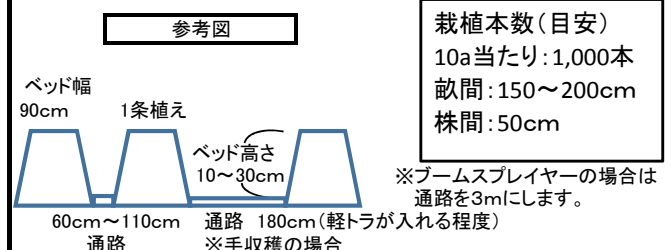
施肥量(kg/10a)	成分量(kg/10a)		
	窒素	リン酸	加里
基幹肥料	10kg	12kg	12kg

平成29年度 反当施肥例			
防散苦土タンカル	285kg	クロロゲン青	1kg(ℓ)
NS262	30kg	硫酸加里	3kg
エコロング413	30kg	SO53	30kg

※加工用トマトの施肥基準はないため、他産地の事例を参考に設計しています。

3 畝立て

- ・圃場が乾いていることを確認してからマルチを使用します。(生分解マルチを使用)
- ・ベッドの高さは30cm程です。
→ 高畝にすると、水はけが良くなります。水はけの悪い地域に向いています。平畝は果数が増えますが、小玉になりやすい傾向にあります。
- ※あまり広いベッドにすると、収穫時の負担が大きくなります。



4 定植

1. 本葉2葉上で摘心した苗を定植します(機械定植も可)。やや深植えにし、植穴に土は入れません(側枝を埋めない)。
※小規模の面積の場合は、カラス口で定植できます。

①機械定植

- ・2人作業で17.2a/hrかかります。(平成28年度道総研調査)
- ・現在、定植機は試作段階なので明確な価格は出ておりません。



- ・レンタルの場合の金額も判明したい、加工用トマト栽培マニュアルに掲載致します。

②手作業での定植

- ・ポット苗定植では、3人作業で5.5a/hr程かかります。(平成28年度道総研調査)
- セル苗定植はより効率的になります。
- ※植穴は極力小さくすること
- ・セル苗はカラス口等を用いて定植します。立ち作業で定植できる道具もあり、「ハンドプランター なかよくん」は当農協で14,440円(税込)で購入が可能です。
- ・セル苗はポット苗に比べ定植のみならず、作業も省力化がはかられます。



5 定植後の管理

- ・定植前日、苗への灌水も行います(セルのドブ漬け)。
- ・定植後、活着を促すために、弱っている株には手かん水を行きましょう。
- ・通路に除草剤を用い、株元のみ手取りで行います。

6 収穫・調整

- ・収穫の目安は着果後50~55日だが、果実の肩部までが十分熟した果実を収穫します。
- ・腐敗果や過熟果を取り除き、腐敗のまん延や病害の発生を防ぎましょう。
- ・個どり収穫の場合は、4~10日おきで収穫を行います。裂果や病害の発生が多い時期は間隔を短くしましょう。
- ・機械収穫を行う場合は、尻腐れ果や腐敗果をあらかじめ除去するために、個どり収穫を3回行った後に機械による一斉収穫を行います。

※収穫機械は現在開発中です。

7 病害虫・生理障害

・菌核病

発生部位: 茎、果実に発生。地際の茎に被害が多い。
病徴: 白色のカビが生じて水浸状の病斑が上下に拡大し割れ目を生じる。後に黒色の菌核形成。
発生環境: 気温20℃前後の多湿条件
使用薬剤: トップジンM水和剤、アフェットフロアブルなど



・灰色かび病

発生部位: 根以外の地上部の全ての部位。
病徴: 枯死部分や傷口から発生しやすい。病斑部は灰白色のカビが密生する。
発生環境: 気温20℃前後の多湿条件
使用薬剤: ダコニール1000、ベルクルート水和剤など



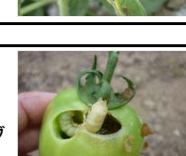
・輪紋病

発生部位: 葉、葉柄、果梗など。
病徴: 葉に輪紋状の病斑を密生するほか、褐色~灰褐色の長円形の病斑を多数生じる。
発生環境: 生育後期の肥料切れの株に密生しやすい。
使用薬剤: ダコニール1000、カスミンボルドーなど



・オオタバコガ

被害部位: 根以外の地上部の全ての部位。
被害状況: 幼虫は葉、芽などに食害し、老齢幼虫は果実などに穿孔、食入する。
使用薬剤: アファーム乳剤、マッチ乳剤、プレバソフロアブル5など



・尻腐れ果

被害部位: 果実尻部
被害状況: 土壌中のカルシウム不足、乾燥や高温によるカルシウム吸収および、移行障害、初期の草勢過多により発生。
対策: カルシウム資材の葉面散布



このほか、生育後半には「うどんこ病」の発生も懸念されるので、注意が必要。